

# 大阪大学工業会100年のあゆみ

大阪大学名誉教授  
(一社)大阪大学工業会 会長 鈴木 胖

ご承知の通り(一社)大阪大学工業会は、昨年3月創立100周年を迎えました。これも、ひとえに先輩諸氏、会員の皆様、工学研究科の先生方や関係の皆様のご理解、ご協力とご支援の賜物と感謝申し上げます。

昨年11月30日に当会創立100周年記念事業として、大学に近い千里阪急ホテルでノーベル賞受賞者・天野浩先生、東京大学教授・鈴木寛先生、サイボウズ株式会社社長・青野慶久様をお招きし、シンポジウム・祝賀会を開催いたしました。お蔭様で西尾章治郎総長、馬場口登工学研究科長様はじめ多くの方々がお忙しくしておられるにもかかわらずご出席頂き、盛大に催すことができました。その上ご出席の皆様からは大変高いご評価をいただき慶んでおります。これを糧に今後の工業会をより良いものとすべく努力をしていく所存ですのでなお一層のご指導・ご鞭撻の程を宜しくお願いいたします。

ここでは当日ご出席いただいた皆様にご紹介いたしました先輩方の足跡、我々の世代の「大阪大学工業会100年のあゆみ」をご紹介します。

大阪大学工学部のルーツである官立大阪工業学校は、1896年(明治29年)に大阪市北区玉江町(現北区中之島5丁目)に創立されました。1901年(明治34年)に大阪高等工業学校に昇格しました。1919年(大正8年)3月、学校の移転・新築及び創立25周年事業を計画するにあたり、学校主導のもと卒業生大会が開催され、同窓会「大阪工業倶楽部」を設立することが決定されました。同年6月には会誌創刊号が発行され、翌年4月には第1回倶楽部総会が開催されました。1923年(大正12年)に学校は都島区綱島(現都島区東野田町4丁目)に移転し、校舎の新築とともに大阪工業倶楽部会館が竣工しました。1929年(昭和4年)には大学令により大阪工業大学に昇格しました。1933年(昭和8年)には1931年(昭和6年)に創立された医学部と理学部からなる大阪帝国大学に編入され同工学部となりました。

第2次世界大戦(1940年(昭和15年)~1945年(昭和20年)、日本の参戦は1941年(昭和16年))の混乱を乗り越え、戦後初の大阪工業倶楽部総会は1947年(昭和22年)5月に開催されました。1969年(昭和44年)3月には倶楽部は創立50周年を迎え、同年末母校の工学部が吹田に移転しまし

た。これを機に倶楽部も工学部キャンパスから少し離れた吹田市藤白台に工業会館を建設することになり、用地を取得し、4年後の1973年(昭和48年)5月に会館が竣工しました。この間、会館の建設そして運営にあたり大阪府から倶楽部を公益社団法人化すべきであるとの要請を受け、定款等を整え名称変更を文部省に申請、1971年(昭和46年)3月に「公益社団法人大阪大学工業会」として文部大臣の認可を受けました。

しかし、藤白台の会館は会員の多くからアクセスが良くないと評価され、10年後の1983年(昭和58年)に会館建物を敷地も含めて売却し、大阪駅からドーゾマ地下街を歩き行ける大阪市北区堂島2丁目の近鉄堂島ビルに会館を移転しました。この10年間は日本の高度経済成長期にあたり、藤白台の地価は12倍以上に上昇し、結果として工業会の資産は大きく膨らみました。1998年(平成10年)4月には大学院重点化により工学部が大阪大学大学院工学研究科に衣替えしました。

4月発刊の工業会誌はちょうど500号で、これを契機に会誌名を「TECHNO NET」と命名しました。2005年(平成17年)には、経費削減その他の理由から会館を閉鎖し、工業会事務局のみをその前年に新設された大阪大学中之島センターに移転しました。

2008年(平成20年)には我が国の法人改革の流れの中で「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」が制定され、当会は2011年(平成23年)の総会において公益社団法人から一般社団法人に移行することが決定されました。これを受けて定款(本会の目的や事業などを定める)の変更など所要の手続きを経て内閣府に申請を行い、2012年(平成24年)3月に内閣総理大臣から一般社団法人として認可する旨の許可が下り、4月に移行登記を行いました。

工学研究科・工学部の卒業生・在校生の人数は約4万人にのぼり、これを母体とする当会は大阪大学の部局等の同窓会の中でも最大の存在です。当会は定款に従い、公益継続事業と共益事業(同窓会活動)という二つの事業を実施しています。

公益継続事業としては、

(1) 各種講演会の開催及び援助、数学講座の開催、工場

や施設あるいは工事現場の見学、科学技術展示会、ホームページ(Techno Net Web)による情報の伝達・啓発活動等の事業。

(2) 大学の海外交流活動の援助・支援、科学技術に関する調査・研究活動に対する援助・支援、大阪大学工業会賞の授与等の事業。これらの援助・支援、工業会賞の授与の対象は工業会の会員に限られます。

(3) 研究・科学論文誌(会誌)「TECHNO NET」の刊行(年4回:1、4、7、10月)。

(4) 企業の協力を得て各種セミナーを開催し、会員・非会員を問わず学生のキャリア教育の推進。

共益事業としては同窓会活動、すなわち会員を対象とした総会(年1回)、理事会(原則年2回)、支部総会(年1回)、等の開催。

当会の事業を活発化するには、大学との連携を一層緊密にし、大学の教育研究活動への工業会の支援を学生や教職員に身近に感じていただくことが基本的に重要であると考えています。2017年(平成29年)、工学研究科・工学部は大学本部の協力のもと、工学部地区にある従来の

食堂中心の福利厚生会館の耐震改修工事を行い、隣接して6階建ての吹田福利交流研究棟(名称:センテラス)を新たに建設されました。当会はこの機会を捉え、総会の同意を得て、資産の一部をセンテラス建設のために寄付しました。そして大学当局の了承を得て3月に当会事務局を大阪市内から同棟内に移転いたしました。

センテラスは6階建て、延床面積約3,700㎡の規模で、1階は食堂の拡張部分、2階は売店など、3階は交流スペース・サロン、4~6階はオープンラボが設けられています。当会事務局は3階の交流スペース・サロンの一画(約48㎡)に置かれています。

当会は交流スペース・サロンにおいて、工学研究科・工学部、同窓生、企業の皆様のご協力を得て、在校生を対象として卒業生が活躍している企業の活動を個別に紹介するイブニングセミナー「企業と学生をつなぐ」、工学研究科・工学部の教職員、学生、同窓生の親睦・交流を深めるプレミアムフライデーなどの新しい事業を積極的に工学研究科・工学部と共催し展開しております。

(電気 昭和33年卒 35年修士)